

当ファンドは、2019年1月15日付にて満期償還しました。

日興ピムコ・ハイインカム・ソブリン・ファンド毎月分配型 (対米ドル・ブラジルレアルコース)

(投資一任先：ピムコジャパンリミテッド)

ファンドの概要

設定日：2011年10月31日
償還日：2019年1月15日
決算日：原則毎月15日
収益分配：決算日毎

ファンドの特色

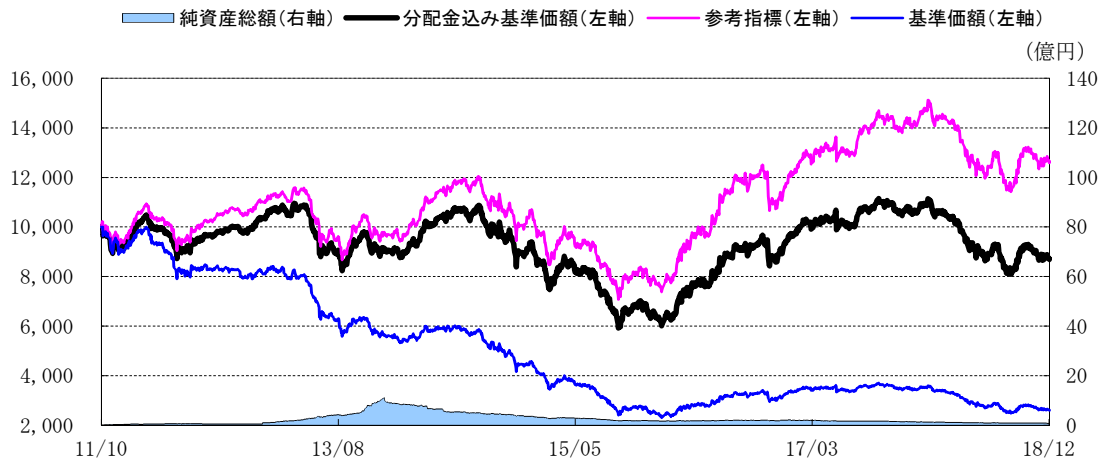
1. 米ドル建ての新興国ソブリン債を中心に、幅広く分散投資を行ないます。
2. 原則として、毎月、安定した収益分配を行なうことをめざします。
※「原則として、安定した分配を行なう」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移することなどを示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況などによっては安定した分配とならない場合があることにご留意ください。

運用実績

※当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。

<基準価額の指数化グラフ>

設定日の前営業日を10,000として指数化



- 基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。
- 分配金込み基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものを表示しています。
- 参考指標は、JPモルガン・エマージング・マーケット・ボンド・インデックス・グローバル・ディバースファイド（ヘッジあり・円ベース）に米ドル売り・ブラジルレアル買いのトータルリターン（円換算ベース）を考慮したものです。当指標に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、JPモルガンに帰属します。

<分配金込み基準価額のパフォーマンス>

	1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
ファンド	-0.88%	0.47%	-0.83%	-17.98%	31.97%	-12.86%
参考指標	0.51%	2.83%	3.93%	-11.04%	57.81%	26.52%

※基準価額の騰落率は、分配金（税引前）を再投資し計算しています。

<基準価額騰落の要因分解（月次ベース）>

前月末基準価額	2,648円
当月お支払いした分配金	-20円
要	
債券要因	インカムゲイン 16円
	キャピタルゲイン 15円
為替要因	-37円
	内 米ドル売り・円買いコスト/プレミアム要因 (-5円)
	内 米ドル売り・ブラジルレアル買いコスト/プレミアム要因 (9円)
因	
その他	-17円
当月末基準価額	2,605円

※上記の要因分解は、概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に説明するものではありません。傾向を知るための参考値としてご覧下さい。
※米ドル売り・円買いコスト/プレミアム要因は日本円の短期金利がアメリカドルの短期金利より高い場合にはプラス、低い場合にはマイナスの数値となり、米ドル売り・ブラジルレアル買いコスト/プレミアム要因はブラジルレアルの短期金利がアメリカドルの短期金利より高い場合にはプラス、低い場合にはマイナスの数値となります。
※ピムコジャパンリミテッドより提供された情報です。

基準価額：2,605円

純資産総額：0.74億円

<当ファンドの資産配分>

PIMCO エマージング・マーケット・ボンド・ファンドⅢ ブラジルレアルクラス	97.8%
マネー・オープン・マザーファンド	0.1%
現金その他	2.1%

<分配金実績(税引前)>

設定来合計	直近12期計	18・1・15	18・2・15	18・3・15	18・4・16	18・5・15
6,540円	240円	20円	20円	20円	20円	20円
18・6・15	18・7・17	18・8・15	18・9・18	18・10・15	18・11・15	18・12・17
20円	20円	20円	20円	20円	20円	20円

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

◆当ファンドが投資する外国投資信託の状況

(運用：PIMCO) 以下は、同社より提供された情報です。

【債券ポートフォリオの概況】

債券比率	79%
現金その他	21%
組入銘柄数	318
平均デュレーション	6.14年
平均最終利回り	7.88%
平均格付	BB+

<ご参考>

米ドル売り・円買いコスト/プレミアム	-2.63%
米ドル売り・ブラジルレアル買いコスト/プレミアム	3.88%

※上段は日本円とアメリカドルの短期金利差から、下段はブラジルレアルとアメリカドルの短期金利差から算出しています。

【格付別構成比率】

長期	AAA	16%
	AA	0%
	A	4%
	BBB	27%
	BB	15%
	B以下	38%
	無格付	0%
短期	A1/P1	0%
	A2/P2以下	0%

【対米ドル・ブラジルレアルコースの通貨別構成比率】

<債券ポートフォリオ>

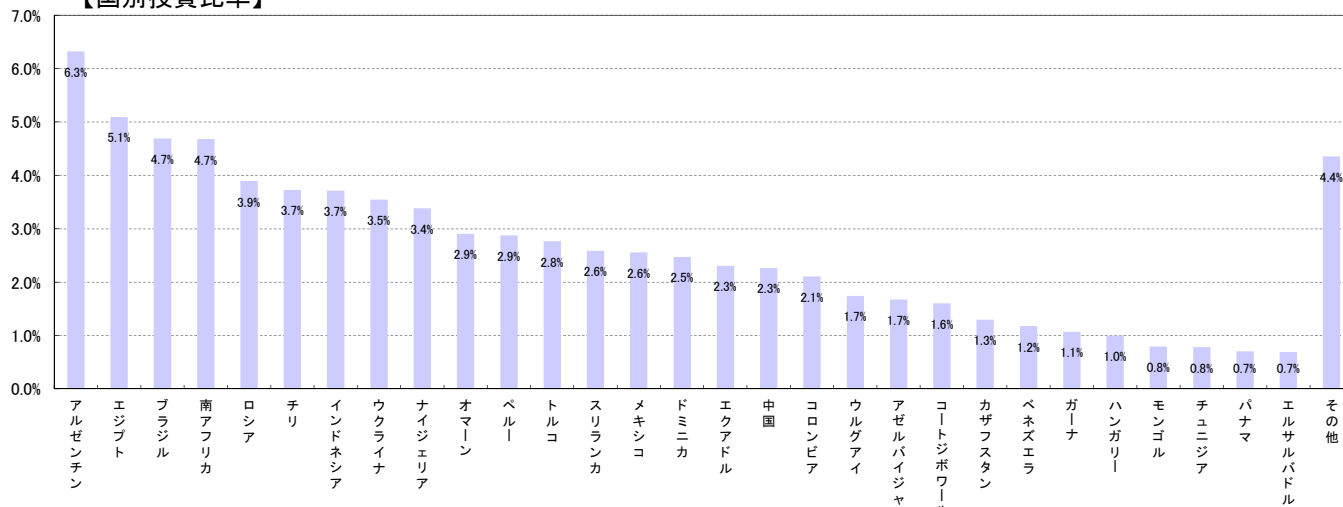
通貨	比率
日本円	100%
その他	0%

<為替取引>

通貨	比率
ブラジルレアル	100%
アメリカドル	-100%

※債券比率および「格付別構成比率」には債券とその他金融商品が含まれます。
 ※「通貨別構成比率」「国別投資比率」は、純資産総額に対する比率です。
 「格付別構成比率」は、債券および短期金融資産の時価総額に対する比率です。
 ※格付は、S&P社、ムーディーズ社のものを原則としており、格付機関により格付が異なる場合は、高い方を採用しております。
 ※平均格付とは、データ基準日時点で当外国投資信託が保有している有価証券などに係る信用格付を加重平均したものであり、当外国投資信託に係る信用格付ではありません。
 ※「国別投資比率」は実質的に属する国に分類しています。また、掲載されている国以外に、当ファンドは米国短期国債などへの投資も行なっています。
 ※平均最終利回りは、信託報酬、手数料および税金などを考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものでも、将来得られる期待利回りを示すものでもありません。

【国別投資比率】



【組入上位10銘柄】

順位	銘柄	種別	国	比率
1	SBERBANK (SB CAP SA) LPN COCO	準ソブリン債	ロシア	3.4%
2	PROVINCIA DE BUENOS AIRE SR UNSEC REGS	国債	アルゼンチン	2.4%
3	PETROBRAS GLOBAL FINANCE SR UNSEC	準ソブリン債	ブラジル	2.0%
4	PERUSAHAAN GAS NEGARA SR UNSEC REGS	準ソブリン債	インドネシア	1.6%
5	PETROBRAS GLOBAL FINANCE SR UNSEC	準ソブリン債	ブラジル	1.5%
6	RIO OIL FINANCE TRUST SEC 144A	社債	ブラジル	1.4%
7	OMAN GOV INTERNTL BOND REGS	国債	オマーン	1.4%
8	REPUBLIC OF TURKEY SR UNSEC	国債	トルコ	1.3%
9	DOMINICAN REPUBLIC REGS	国債	ドミニカ	1.3%
10	SRI LANKA GOVT BOND SR UNSEC REGS (1MMM)	国債	スリランカ	1.3%

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。

■当資料は、投資者の皆様に当ファンドへのご理解を高めたいことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。

運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

米ドル建て新興国債券は参考指標（米ドルベース）で前月比上昇、為替市場では米ドル高ブラジルレアル安となりました。

当月の新興国債券市場は上昇しました。米国債市場では、景気後退の前兆として注目される長短期金利が逆転する現象（逆イールド）が発生したことや、11月の米雇用統計で非農業部門雇用者の増加数が予想を下回ったこと、さらにはFOMC（米連邦公開市場委員会）で2019年の利上げ見通しが3回から2回へ下方修正されたことなどを受け、月を通じてみると米国債利回りは大きく低下しました。また、エマージング債券市況は、原油安に伴う世界的な株式市場の下落や米中貿易摩擦の再燃からリスク回避的な動きが強まる中、スプレッドの拡大がマイナス要因となったものの米金利の低下によるプラス要因がそれを上回り、月を通じては上昇する展開となりました。

国別の債券市場動向をみると、トルコ、スリランカ、インドネシアなどが市場平均を上回った一方、アルゼンチン、オマーン、ベネズエラなどが市場平均を下回るパフォーマンスとなりました。

トルコ中央銀行が発表した10月の経常収支は市場予想を上回り、トルコリラが急落した8月以降3ヶ月連続での黒字となりました。また、11月の物価上昇率は前年比+21.6%となり10月の+25.2%から低下に転じ、過度なインフレ懸念が後退したことで堅調なパフォーマンスとなりました。また、インドネシアでは、同国中央銀行が自国通貨防衛やインフレ抑制に向け、為替市場への介入や5月以降6度にわたる利上げを行ってきたことなどが奏功したことに加え、2018年初から減少が続いていた外貨準備が10月以降増加に転じたことも、通貨ルピアの安定や同国債券相場のサポート要因となりました。一方、大統領選挙を2019年に控えるアルゼンチンでは、第3四半期の実質GDP成長率が前期比年率-2.7%となり2四半期連続でのマイナス成長となったことで、改めて同国の脆弱なファンダメンタルズに市場の注目が集まり、パフォーマンスは軟調に推移しました。

◎運用概況

当月の騰落率はマイナス（分配金考慮）となりました。新興国債券市場が堅調に推移したものの、米ドル高ブラジルレアル安が進行したことから、基準価額は下落しました。

参考指標との比較では、ナイジェリアおよびアルゼンチンへの積極姿勢などがプラスに寄与した一方、メキシコおよびフィリピンへの消極姿勢などがマイナスに寄与しました。今月の当ファンドのパフォーマンスは参考指標を下回りました。

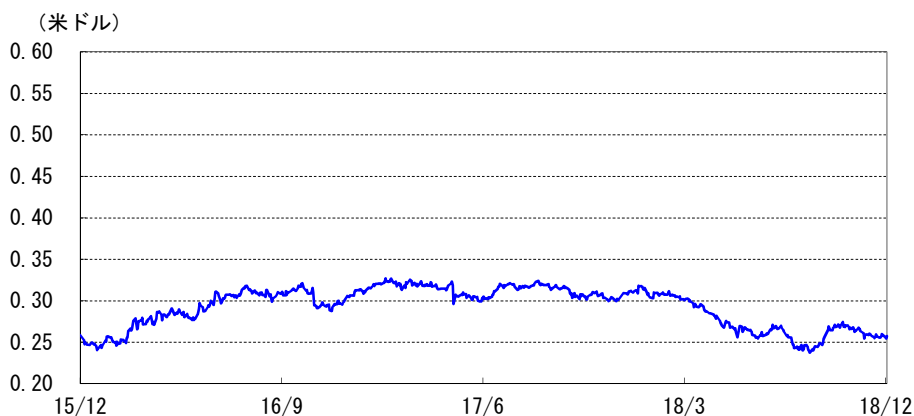
◎今後の見通し

世界経済は引き続き緩やかながらも成長を続けていくと見込んでいるものの、景気拡大の最終局面にあるとの認識の下、実質GDP成長率は2018年比で若干減速するとの見通しを持っています。しかしながら、エマージング諸国は通貨安を背景とした交易条件の改善や輸入減少・輸出増加などを通じて相対的に良好なファンダメンタルズを維持している国々があり、経済成長のピークアウトが強く意識されつつある先進国と比べ、相対的に投資妙味が高いと考えられます。また、2018年に起きたエマージング市場の調整によって利回り水準が上昇したことで、バリュエーションの観点からも投資妙味が高まっていると見ています。一方、貿易摩擦や主要先進国の中央銀行による金融緩和の縮小、個別国における政治リスクなどは、エマージング市場の変動性を高める可能性があるため引き続き注意が必要と考えております。

このような環境下、エマージング債券への投資に際しては、エマージング諸国間の選別投資が引き続き重要であると考えます。具体的には、バリュエーションが割安かつIMF（国際通貨基金）による支援が見込めるアルゼンチンを積極姿勢とする方針です。また、南アフリカではラマポーザ大統領による構造改革が進行しており、中長期的に同国のファンダメンタルズの改善が見込めることから積極姿勢としています。一方、中国をはじめとするフィリピン、マレーシアなどのアジア諸国については、相対的な割高感や米中貿易摩擦等による中国経済への影響が懸念されることなどから消極姿勢としています。

ご 参 考

＜為替推移 ブラジルレアル対米ドル＞



※信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。